



Vol.147

2015年03月16日 発行

発行人岡本和久

I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社【ホームページ】

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-8-6広尾186ビル7階

TEL : 03-5789-9821 FAX : 03-5789-9822

お問い合わせ : [メールフォーム](#)

今月の ひとこと

チャールズ・エリスの新著、「敗者のゲーム 原著第6版」が本年1月末に発刊されています。初版は「機関投資家時代の証券運用」というタイトルで1987年に発刊されています。このタイトルからもわかるようにこの本はもともと機関投資家のための本でした。新版では約四分の一以上が「個人投資家への助言」という章に費やされています。それだけ、エリスの注目が機関投資家から個人投資家へ移ってきたということでしょう。

この本で私が最も価値あるアドバイスだと思ったのは以下の文章です。「マドフやアイスランドのショックと2008年の市場崩壊とは一点において決定的に違う。両方とも損失は巨額で回収は不能だ。一方、市場は回復するものだ。つまり、**個人投資家にとっての最大のリスクとは、相場の暴落ではなく、恐怖にかられて相場の大底で保有株を投げ、その損失を確定してしまうことなのだ。**大暴落ごとにほとんどの投資家がこうした落とし穴にはまっている」

FACEBOOK上でクラブ・インベストライフの仲間が活発な議論をしています。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください（2015年3月12日現在で参加者数は2806名です）。

新幹線が北陸を、日本を変える！

佐渡 玉希氏、横山 純子氏、谷崎 由美氏、小嶋 久之氏 編集：岡本 和久



北陸新幹線（金沢・富山～長野間）が3月14日に開業しました。東京から京都に行くのと、金沢に行くのが同じぐらいの時間になるのです。私はこの北陸新幹線が日本国内に大きな地政学的インパクトを与えるのではないかと考えています。今回は北陸在住の四人の方にその期待と魅力を語っていただきました。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー講演より お金と向き合う 三つのステージで考える逆算の資産準備

講演：野尻 哲史氏、レポーター：川元 由喜子



老後の為に60歳でいくらか必要かという議論は、常に残高の話です。でも残高の話はやめて、引き出し総額に目を向けてくださいというのが逆算の資産準備の発想です。60歳というゴール設定をやめ、代わりに95歳で資産ゼロ円、というゴールを立てましようとして申し上げます。そこから時間を逆に遡るのです。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー対談より 退職後に備える運用、退職後の運用

座談会：野尻 哲史氏、岡本 和久 レポーター：赤堀 薫里



退職後のために行う資産形成、退職後に行う資産活用、それぞれのポイントについて話し合いました。

[読んでみる](#)

クラブ・インベストライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分は今の自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することも一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズの メール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

Facebookへは[こちらをクリック](#)

Twitter上のグループ
 クラブインベストライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlife](#)さんをフォロー

中国がわかるシリーズ25 長春の春

ライフネット生命株式会社 代表取締役会長兼CEO、出口 治明氏

国際都市、長安を中心に文化が花開く唐の時代です

[読んでみる](#)

インベストラ이프応援団のブログ あいうえお順、敬称略 | [紹介一覧はこちら](#)

[伊藤宏一の「近現代日本と貯蓄」ー貯蓄は美德なのかー](#)

伊藤 宏一

[実践コーポレートガバナンス研究会・ブログ](#)

門多 丈

[会長 澤上篤人のレポート](#)

澤上 篤人

[真マネー原理](#)

滝沢 伯文

[一日一言ブログ](#)

竹田 和平

[積立王子のブログ](#)

中野 晴啓

[SRIのすすめ 未来の測り方](#)

速水 禎

[馬淵治好の凸凹珍道中](#)

馬淵 治好

[右脳インタビュー](#)

片岡 秀太郎

[鎌田泰幸のブログ](#)

鎌田 泰幸

[世代を超える想いの滴](#)

渋谷 健

[About Money, Today](#)

竹川 美奈子

[出口治明の提言：日本の優先順位](#)

出口 治明

[CFA流「さんない」投資塾](#)

日本CFA協会

[毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ！](#)

尾藤 峰男

[森本紀行はこう見る](#)

森本 紀行

バックナンバー

[一覧](#)

- [2015年02月16日発行 Vol.146](#)
- [2015年01月13日発行 Vol.145](#)
- [2014年12月15日発行 Vol.144](#)
- [2014年11月17日発行 Vol.143](#)
- [2014年10月15日発行 Vol.142](#)
- [2014年09月16日発行 Vol.141](#)
- [2014年08月15日発行 Vol.140](#)

バックナンバー

2012年12月までに発行されたインベストラ이프をご購入いただけます。

[購入・詳細](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

2月は積極型が6%超、成長型が4%程度、安定型が2%弱と順調なパフォーマンスでした。

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

今月は直販ファンドの比較です。

[読んでみる](#)

I-OWAたより

I-OWAマンスリー・セミナー講演より「存在力」とPro-Agingな生き方

講演：岡本 和久、レポーター：川元 由喜子



「アンチ・エイジング」といいますが、年をとるということは「進化する」ということです。「アンチ」というよりむしろ「プロ・エイジング」、老化に親しんでいく、という考え方がもっとあって良いのではないのでしょうか。老後には若い時には無かった力が出て来ます。それを、存在そのものが持っている力＝「存在力」と名付

岡本和久のI-OWA日記

★大村／長崎もうまいものいっぱい！ ★大村でのセミナー後、長崎へ移動、ランタン祭見物 ★長崎県大村市でセミナーをさせていただきました ★「寄付教育調査報告書」に「ハッピー・マネー教室」が紹介されました ★仙台はおいしいものがいっぱい！ ★仙台のNPO法人アスイクで「2015 マネープログラム」をさせていただきました ★仙台でセミナーをさせていただきました ★リスクを高めずリターンを高めるアセット・ロケーション ★エコノミクス甲子園開催前日のイベントで講演をさせていただきました ★江戸川区立松江第六中学校から

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

けてみました。
[読んでみる](#)

連載 資産運用「茶飲み話」 (12)

岡本 和久

★「休むも相場」は長期投資の楽しみ ★「退職したら毎月分配」は本当か ★投信会社はつらいよ ★機関投資家はつらいよ ★短期投資で大切なふたつのこと
[読んでみる](#)

セミナー案内

★5/24（日） 14：00～16：30 東京都渋谷区 I-OWA創業10周年記念、拡大版マンスリー・セミナー 講師：林 望氏、岡本 和久、★4/19（日） 12：30～16：30 東京都渋谷区 I-OWAマンスリー・セミナー 講師：津金 真理子氏、岡本 和久 ★4/11（土） 13：30～16：30 福岡 「人生を通じての資産運用～基礎とリターン・アップ戦略」、講師：岡本和久

[詳細はこちらをご覧ください。](#)



新幹線が北陸を、日本を変える！

佐渡 玉希さん、横山 純子さん、
谷崎 由美さん、小嶋 久之さん
編集：岡本 和久

北陸新幹線（金沢・富山～長野間）が3月14日に開業しました。東京から京都に行くのと、金沢に行くのが同じぐらいの時間になるのです。私はこの北陸新幹線が日本国内に大きな地政学的インパクトを与えるのではないかと考えています。

この北陸新幹線、実は北陸の方にとっては50年来の夢でした。東海道新幹線が完成したのが1964年でした。その時に、東海地域に災害が起こった場合のバックアップとして北陸経由で東京と大阪を結ぶ新幹線構想が生まれたのです。1965年には金沢で開かれた「一日内閣」で、北陸新幹線構想が打ち上げられています。1967年には国鉄が新全国総合開発計画を決定、北回り新幹線建設促進同盟も結成されたりしています。

しかし、その後、遅れに遅れてようやくいま、この長年の夢が実現しました。これにより日本の可能性は非常に大きく開かれるだろうと思います。潜在力を顕在化するのは人材だけではないのです。北陸新幹線は、いままで十分に経済活動に組み込まれていたとはいえない地域が、その魅力と底力を発揮する機会を与えることになると思います。今回は特集として北陸在住の四人の方から寄稿をいただきました。

北陸の魅力

フィナンシャル・アドバイザー
佐渡 玉希さん（高岡在）

地図を逆さにしてみると日本列島が日本海を囲んでユーラシア大陸や朝鮮半島を囲んで輪っかのように見えます。かつて、文化・暮らし・経済交流の玄関口は日本海でした。

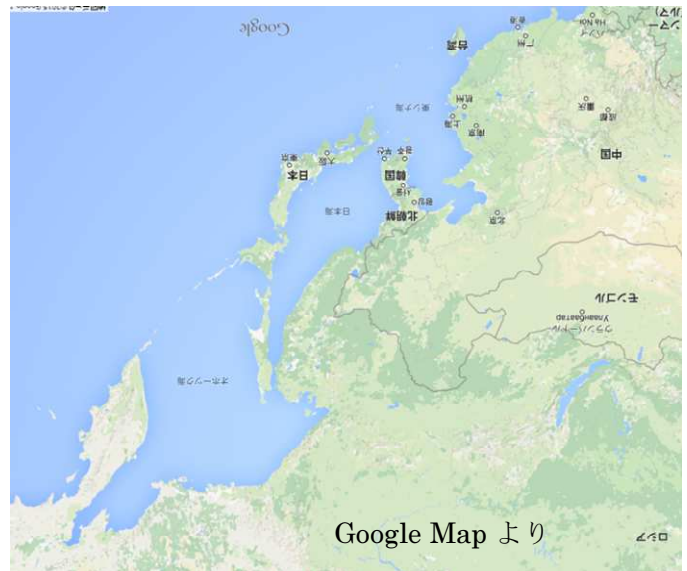


長期投資仲間通信「インベストラيف」

江戸時代から明治にかけて、経済・文化の交流は船によってもたらされていました。大阪―瀬戸内海―北陸―東北―北海道を巡る航路は風の影響を受けても岸に辿りつくという理由から 90% の船が西回りの航路をとりました。日本海側の中継点 北陸は大動脈の要だったのです。

北前船により、中国・長崎などから運ばれた薬は富山の地で加工され、製薬業が発展していきます。薬の富山として有名ですが、置き薬の行商は、農閑期の人々の仕事として発展していきました。置き薬を補充するという商売は相手を信頼してからこそ成り立つ手法です。「用いることを先にし、利益は後から」という「前用後利」を大事にしていました。

また、販売のためには顧客の名前、住所などの情報、薬の銘柄・数量、使用歴や服薬回数など記録し、集金しなければなりません。この「懸場帳(かけばちょう)」作成などから財務会計の巧みな気質がうかがえます。得意先の情報をデータベース化し、マーケティング・アフターケアをしていたのです。



現在でも金融、保険、IT 分野で活躍する企業の創設者は北陸出身の方が多いと聞きます。北前船で商才を磨き、まじめで質素儉約な北陸人は明治以降の日本経済発展史に名前を残していきます。富山では安田財閥となった安田善次郎、コンクリート王の浅野総一郎などが挙げられます。

北陸の地域、加賀 100 万石を納めていた前田家です。政治軍事面では徳川家に屈しましたが、文化面で徳川家に負けるものかと前田家、三代利常、五代綱紀は文化育成に力をいれます。江戸時代には武家文化が花開き、九谷焼・加賀友禅・蒔絵など美術や能楽、漆器・銅器などの工芸品は高く評価されています。初代前田利家は千利休に、三代利常は小堀遠州に学び、茶道を愛好しました。茶席に花を添える和菓子文化が発展し、見ても食べてもおいしい和菓子がたくさんあります。

北陸新幹線の開通でふたたび、人・モノ・経済・文化の交流が盛んになることを期待します。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

北陸の新しいおみやげを開発すべく、さまざまな商品が生まれています。でも、やはり、明治からの駅弁の定番「ますずし」がおすすめです。特に、源の「いぶしますずし」はいぶした鰯が肉厚のスモークサーモンのように香り豊かです。昆布でお寿司を巻いてあるため、噛むたびに旨みが増します。各駅販売数は限定されていますが、比較的簡単に駅売店で手に入ります。列車内で食べてもよし、おみやげにしても喜ばれると思います。みなさま、ぜひ、北陸の魅力をお楽しみください。



北陸新幹線開業がもたらすもの

ファイナンシャル・プランナー
ハッピー・マネー®・インストラクター
横山純子さん(富山在)

北陸新幹線が開業すると、富山発着の大阪行きサンダーバードがなくなります。富山市在住の私にとって、長く親しんだ列車だけにとってもさみしいのですが、主役の東京行新幹線では、あの越後湯沢での乗換がなくなり、落ち着いたあるブルーのラインの北陸新幹線が2時間8分という速さで私達を東京へと運んでくれます。

新幹線開業を間近に控えた3月5日に、85歳になる母を孫の結婚式に出席のために、東京の町田に住む姉の元へ送りました。母は、杖を必要とはしないまでも、ゆっくりと歩き、とっさの対応ができません。長距離や階段をたくさん歩くことも厳しい母をどうやって東京まで連れていくか？私が選択したのは、飛行機による移動でした。自宅から空港までは車で、空港には無料駐車場があるので助かります。コンパクトな富山空港内は移動が少ないので大丈夫です。優先搭乗をお願いして、座席もなるべく前方へ、しかも立山連峰や富士山が見える座席を確保してもらい、羽田到着後は、他の乗客が降りた後で、ゆっくりと車椅子で長い通路を出口まで送ってもらいました。そして出口には、車で来た姉夫婦が出迎えてくれました。おかげさまで、母はとても快適に楽しく移動をすることができました。もちろん特別な料金も発生しません。なんと素晴らしいサービスでしょう、心から感謝いたしました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

新幹線開業前の航空運賃は、特割でも片道で JR とは 6,000 円ほどの価格差がありましたが、開業後は、乗降客を減らさないようにと、JR のネット購入価格にまで値下げされるとのことです。東京便の価格が新幹線と同等になる、これは想定外のとてもうれしいことです。

富山は、車が主な交通手段なので公共の交通機関があまり便利ではありません。JR にしても飛行機による移動でも、自宅から自家用車で移動した場合の駐車場をどうするか？は長距離移動の交通手段を選ぶ際の重要なポイントです。

新幹線開業後は、飛行機の利用が減るのではないかと心配する声が多いのですが、価格が横並びということであれば、そんな心配は無用とも思えます。新幹線開業によって、値段は同じ、時間も変わらないならば、駐車場が有料か無料か？高齢者などへのサービスが充実しているか？で選択肢が増えたのはとても嬉しいことです。駐車場が有料の小松空港を利用するよりも富山空港を利用する方が便利な人、新幹線の停車駅まで行って乗り換えるには時間がかえってかかってしまう人、人混みの中でのホームの移動や、最終目的地に到着するまでの乗換や移動の煩わしさを厭う人にとって、「東京へ行く！」という目的を達成するためには、なんといっても飛行機が便利です。

新幹線開業で、今までの仕事の仕方を否応なしに、知恵を絞って変えていく企業や人が増えてきていることを感じます。こうやって、富山はこれからどんどん活気に溢れてきそうです。なくなってさみしいと思うものがある反面、これからどんな変化がどんなふうにくるのか？期待して、わくわくする思いで新幹線開業を待っています。

最後に、私の大好きな富山の風景をご紹介します。寒ブリが美味しいことと、藤子不二雄 A 氏の出身地として知られた富山県の北西部、能登半島の付け根に位置する氷見市の海岸から望む、冬の立山連峰です。富山県人は、立山連峰を望むお気に入りの場所を誰もが持っていますが、私のベストは氷見海岸からです。見ただけで心がすうっと落ち着いて、気持ちがきれいになってきます。いつまでも見ていたいと思います。北陸新幹線に乗って、どうぞこの景色を楽しみに来て下さい！



金沢の食文化をお楽しみください！



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ライフワークサポート マネートレーナー
ハッピー・マネー®・インストラクター
谷崎由美さん(金沢在)

北陸の人が待ち望んだ北陸新幹線がとうとう開通しました。

「史上最高のバブル到来か?!」と言われている金沢ですが、都道府県データによれば、石川県の特徴は、

- 雨や雪の日が多い。全国1位。年間降水日数 197 日。
 - 1 世帯当たり置く除湿剤、全国1位。
 - 和生菓子購入金額 全国1位。
 - 茶道をたしなむ人 全国1位。
 - 華道をたしなむ人 全国1位。
 - 回転寿司店の1店当たりの人口(集積度) 全国1位。
 - すし(外食)の年間支出額 全国1位。
 - アイスクリームの消費量 全国1位
 - コーヒー豆の消費量 全国1位
- など、結構、全国1位が多いのです。

太平洋側では夏の風物詩の「雷」も、北陸では冬の風物詩。「冬の雷」は、日本海沿岸とノルウェーの大西洋沿岸に限る世界的に珍しい気象現象のようです。

今回北陸の紹介にあたって、食べるのが大好きな私は金沢の食文化についてご紹介。

茶道をたしなむ人が多いという事は、当然、和菓子を消費するという事も当然ですね。という訳で、和菓子屋さんの数も相当多いと思います。そして、「大樋焼」などの茶道具の名品も生み出しています。私の友達にも実家がお菓子屋さん、お母様がお茶の先生という方はよくおりました。「50 プラス起業ネットワーク石川」 具体的な活動





長期投資仲間通信「インベストラيف」



江戸時代に入り、千利休から派生した茶道は、3 人の孫に引き継がれ表千家、裏千家、武者小路千家の3 派に別れました。三大藩主利常が裏千家の千宗室・仙叟(せんそうしつ・せんそう)を指南として招いたため、加賀藩の文化奨励策に起因し「茶道」も庶民に普及する事となって加賀藩には裏千家が普及しました。この利常の文化奨励策によって 5 代藩主綱紀の頃には職人や町人までもお茶の作法を身につけるほど幅広い層にまで広がっていったようです。



茶道と連動するのが「懐石料理」。茶の湯には「濃茶」と「薄茶」があり、正式なお茶会は「正午の茶事」。正午に席入りをして食事(懐石)をいただき濃茶と薄茶でもてなします。茶会の形式にのっとった食事を「懐石」と言います。懐石の基本は「一汁三菜」。濃茶をいただく前に出されます。「懐石」は空腹のまま刺激の強い濃茶を飲むことを避け、お茶を美味しく味わうための空腹をしのぐ軽食です。料理が主ではなくすべてお茶が中心に動いています。

そしてお茶事のお作法の基本が「思いやり」と「先読み行動」「後始末」です。それをまとめて「おもてなし」。人との出会いを一生に一度のものとしてお客様に対して今できる最善のもてなしをしようとする私の大好きな言葉、「一期一会」も茶道から生まれた言葉です。ホスト役の「亭主」が心のこもったおもてなしのために、季節や目的に合わせ掛け軸や花、茶道具などを揃えてお客様をお迎えする。「思いやり」「先読み行動」「後始末」、お金も文化も同じではないでしょうか？

茶事で濃茶の前にいただく「上生菓子」。薄茶の前にいただく落雁などの「干菓子」などが日常に



長期投資仲間通信「インベストラيف」

使われ、和菓子消費量全国 1 位を作っていることは間違いないでしょう。そして茶道の普及によって華道も普及する。華道が全国 1 位の理由もわかります。「懐石」や「お菓子」。お茶事に使う道具として、「懐紙」を頻繁に使うので持っている人が他県より多いかもしれません。金沢にお越しの際には、お茶の文化にも触れてみてください。

【金沢クラフトツーリズム】↓

<http://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/craft-tourism/teaceremony/index.html>

私が最近お茶事について学ばせていただいている先生は、お茶事の道具と包丁のみのお店を持たない「懐石」の料理人ですから、どこでも出張可能です。「懐石」をお茶事に頼まれてお料理をされる方も何人もいらっしゃいます。新幹線が開通して北陸からいろんなところへ「お茶とお菓子」と「懐石」のおもてなしを広めていける機会があれば、バブルだけでは終わらないと確信しています（笑）。金沢にお越しの際に、「茶懐石」というご用命があれば、私が企画いたします！

石川で起業を！

「50 プラス起業ネットワーク石川」 代表 小嶋久之さん(金沢在)

岡本| 小嶋さんは金沢生まれで金沢在住ですが、新幹線開通でどんな変化がありそうですか？

小嶋| 北陸というと寒い、雪深い、遠いというイメージがあると思います。やはり、新幹線ができることでかなり変わると思います。飛行機もありますが、どうしても時間が遅れたりすることがあるのでアポの取り方も慎重になってしまう。しかも、飛行機では仕事のあと「ちょっと一杯」というのも難しい。かつて、大阪で勤務していたことがあります。その時、急用で「すぐ、名古屋へ行ってくれ」という仕事がきたのです。これは驚きました。しかし、これも大阪と名古屋間の移動時間が短いから可能なのです。新幹線だと 1 時間程ですからね。以前は、金沢から能登へ行くのだってそれほど簡単ではなかった。今はそのへんも大きく変わってきました。東京～金沢間も 2 時間半になり、東京～京都とほとんど同じになる。週末は金沢で、ウィークデーは東京でとか、その逆とか、そういったことも可能になるでしょう。いまから 30 年ぐらい前に大阪勤務から金沢に戻ったのですが、その時に「あと 10 年もすれば新幹線もできるから、これからはもっと気楽に行き来ができる」と思っていました。まあ、「やっと」という感じですね。地元の期待も大きいし東京などの店舗が金沢駅の近くの不動産物件を探しているという話も聞きます。不動産関係の人に聞くと値段は上がっているけれど物件があまりないので取引としては成立していないようですけれどね。マンションはかなり建設されているので、居住用だけでなく投資物件としても買う人は多いようです。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

岡本| 金沢、北陸の魅力はどんなところにありますか？

小嶋| やはり自然が近い場所にあるということでしょう。金沢から1時間とか1時間半で海や山へ行ける。これは魅力です。それから東京などでは食堂などで待たされることが結構ありますが、金沢ではそれはあまりない。金沢から東京に行ってレストランなどで待たされると「時間がもったいない」と感じる人が多いのです。産業としては食品関係と観光がいま一番力を入れていると感じています。案外、北陸ではニッチトップの企業があり、それらをうまくつなげようという試みがされています。回転寿司の機器などが有名ですね。2月23日に金沢の大学などが中心になり北陸地域の産学連携・産産連携マッチングイベントが催されています。また、秋にも二日ぐらい行うようです。例えば、石川県の担当者に教えてもらったものを基にピックアップしますとこんな企業があります。

	企業名	トップ分野	所在地
1	株式会社石野製作所	回転寿司コンベア機のトップメーカー	金沢市
2	株式会社PFU	業務用スキャナー (イメージスキャナの領域で世界シェア 50%を誇る)	かほく市
3	澁谷工業株式会社	飲料用充填装置(瓶詰め機械)で国内最大手	金沢市
4	小松ウォール工業株式会社	パーテーション (オフィスビル等の間仕切り総合メーカー、国内首位争う)	小松市
5	玉田工業株式会社	地下タンクや防火水槽の設計・製造のトータルプランナー SF二重殻タンクは、全国トップシェアを誇る	金沢市
6	株式会社アクトリー	産業廃棄物処理プラントの分野でトップシェアを有するリーディングカンパニー	白山市

岡本| 物価もかなり安い。

小嶋| そうですね。安いだけではなく能登の方へ行けば空き家がたくさんある。私がいま計画しているビジネスを始めようと思ったきっかけの一つに、七尾に土地と空き家があるから只でもらってくれないかと言われたことがあるからなのです。持っているだけで固定資産税がかかり、ご近所との関係で草刈りも必要、オーナーは都会に住んでおり、もう帰る気もないのでもらってもらえないかというのです。建物を壊すだけでも結構な費用が掛かりますからね。今回も私の知り合いが能登で両親が住んでいた空き家がある。母屋を壊すだけで250万円かかるので大変だという話があったのです。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

岡本| 起業家にはありがたい話ですよ。やはり、新しいことをしようとした時に、大きな壁になるのが場所、というか社屋ですからね。ベンチャーキャピタルなどにはいい話でしょう。シリコン・バレーのようになるかも(笑)。

小嶋| ある方が言っていましたが、IT 関係は引き抜きが多い。北陸で会社が住まいも提供してしまう。そうすると子どもが地元の保育園や学校に入ることになる。社宅も安く手配ができますしね。北陸は教育レベルも医療関係も充実しているので従業員を定着させる効果もあると思います。

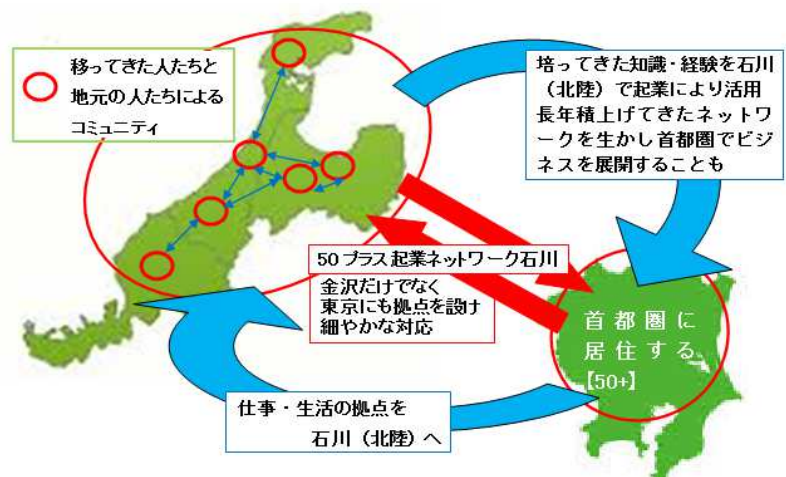
岡本| 今回、起業しようと思ったきっかけは？

小嶋| 53 歳の時からある金融機関で働いていましたが定年が近づくにつれて自分の仕事に対する思いと会社から期待されている内容にずれが生じ始めていることを感じていました。私は現在、59 歳ですが、自分から新しいプロジェクトの提案などしにくくなる。そんな思いを持っていた時に会計事務所の代表の知己を得ました。そこで自分の起業プランを話したところ、支援をしてくれるとのことなので今年の 7 月に会計事務所に籍を移しました。

岡本| 今回、計画しているビジネス・プランを話してください。

小嶋| まず、50 歳以降の方が再雇用以外にもいろいろな働き方があることに気づいていただき、起業をしてもらう。起業については石川県に移ってもらう。私はそのお手伝いをするを考えています。起業と移住の両方のハードルを私が低くしてあげるとするのが目的です。私自身、東京と金沢を往復してそのお手伝いをするつもりです。東京にも拠点を置き、お客様を集めて起業セミナーをしま

す。すぐに起業という話ではなく、ライフプランやキャリアプランを考えるサークル活動を行い、その中から起業したい人に出てきてもらう。私としては石川で余生を楽しんでもらうというだけでなく、もう少し活躍して地域にも貢献してもらいたいと思っています。里山資本主義という言葉をよく聞くようになりましたが、地域の中でお金が動くきっかけを作っていただきたいということです。廃校を共同で利用し、起業したい人たちがそこを事務所や作業所として使う。そのような起業が増えればそこに会計や販売をする仕事をアウトソースする可能性もある。不動産関係、観光関係、税理士、社労士、司法書士などの方々とはネットワークを組んで支援体制を作っています。当面は





長期投資仲間通信「インベストラيف」

個人事業で、いずれは株式会社化したいと思っています。

岡本| 退職を前にした人に対してどんなメッセージを届けたいですか？

小嶋| 私自身がそういう立場だったのですが(笑)、50歳以降はもう一度、これからの人生をどう生きるかを考える。その中で再雇用と合わせて起業も考えてみてはどうかということですね。私も53歳で転職したとき63歳までの10年間、そのうち60歳からの3年間を再雇用でということも考えていたのですが、いざ、働いてみると先ほども言ったように会社の期待との間のギャップが大きくなることを感じていた。私の場合はそのギャップを我慢するよりは起業をした方が良いということで決断したのです。60歳を過ぎてから「やっぱり起業すればよかった」と思うのではなく、60歳になる前に起業を考える機会を提供したいと思っています。考えを持って再雇用を選ぶのは良いのですが、成行きでそうならないようにした方が良いと思います。

岡本| 退職後のことは退職してから考えるのではなく退職する前に考えておくということですね。

小嶋| 準備に時間をあまりかけられないですからね。ある調査によるとシニア起業家の場合の準備期間はそれ以前に起業した場合よりも短いそうです。また、開業準備期間の長さの開業後のビジネスが成功するかどうかは相関関係が大きいとも言えます。早めの準備が望ましいです。私はいま、会計事務所に所属しつつ自分の仕事の開業準備をしています。パラレル・キャリアという併走期間ですね。2月からは在宅勤務で会議の日程に合わせて出社しています。例えば、雇用されていない状態で人に電話をするときもちょっと困るのですよね。「『元』〇〇会社にいた小嶋です」ということになってしまう。親しい方ならそれでもいいのですが、いったん、肩書がなくなってみると不自由なものです。

岡本| 実体験に基づく貴重なお話をありがとうございました。ビジネスのご成功を祈っています。

「50 プラス起業ネットワーク石川」 具体的な活動

- ・起業準備セミナーやワークショップの開催
- ・事務所、店舗、住まい等の物件や地域情報の提供
- ・事業計画書の作成指導
- ・助成金・補助金の情報提供や手続きの相談
- ・法人登記、税務署、社会保険関係の手続き相談
- ・金融機関への融資相談の同行
- ・定年後のライフプランを一緒に考え・交流するサークルの運営



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

※将来は、富山・福井で起業を検討の方にも当該地区に詳しいパートナー(50 プラス起業ネットワーク石川の事業の協力者)と協力して支援を行えるようにします。

※この事業計画は、2015 年全国ビジネスモデル発見 & 発表会「北陸大会」で地域経済及び産業の発展のためのビジネスモデルとして表彰されました。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

I-OWA マンスリー・セミナー講演より お金と向き合う 三つのステージで考える逆算の資産準備

講演:野尻 哲史氏、レポーター:川元 由喜子

老後の為に 60 歳でいくら必要かという議論は、常に残高の話です。でも残高の話はやめて、引き出し総額に目を向けてくださいというのが逆算の資産準備の発想です。60 歳というゴール設定をやめ、代わりに 95 歳で資産ゼロ円、というゴールを立てましょと申し上げています。そこから時間を逆に遡るのです。

まず、あなたはいったいいくら要るのか考えましょ。

(退職前年収) × (生活費レベル%) × (生活年数) で計算します。生活レベルというのは退職前の生活費と比べた比率、生活年数は 60 歳時点からの年数ですが、女性で生存率 20% とすると 95 歳ですから、35 年ほど見ておけばよいでしょう。

これで計算すると、簡単に 1 億を超えます。平均的な数字で計算すると、

$600 \text{ 万円} \times 68\% \times 35 \text{ 年} = 14280 \text{ 万円}$

ここからもらえる年金額

$24 \text{ 万円} \times 12 \text{ か月} \times 30 \text{ 年 (受給年数)} = 8640 \text{ 万円}$

を差し引きますと、

$14280 \text{ 万円} - 8640 \text{ 万円} = 5640 \text{ 万円}$ 必要、と計算されます。

ここからが逆算の資産準備です。95 歳から 75 歳時点まで遡ること 20 年、この間はもう運用はしません。持っているお金を使い続けます。毎月の引き出し額は月 14 万円、ずっと引き出していくと、75 歳の時に 3360 万円あれば、95 歳でゼロ円になります





長期投資仲間通信「インベストラيف」

次は 60 歳まで遡ります。定年退職後、75 歳までの 15 年間は運用を続けます。使いながら運用する時代です。この間の引き出しは残高の 4%、運用利回りは 3%を狙うとすれば、資産は毎年 1% ずつ減っていくことになります。これですと、60 歳の時に 3950 万あればよいことになります。60 歳以降の引出額総額は 5695 万円となります。注目してほしいのは、残高ではなくて、引き出し総額の 5695 万円。先ほど足りないと言っていた金額とほぼイコールです。引き出し総額は残高とは違うということが分かれば、老後 5600 万必要でも、60 歳で 4000 万ぐらいあればできる。ここで 1600 万ぐらい下げられるのです。

次に、定年後にも働くということ。60 から 65 歳まで働くとして、残高を減らさない、というルールにしたら、60 歳でいくら必要か。この期間(60 歳から 65 歳)の収入が 771 万円とすれば、3233 万円。これでまた 700 万円ぐらい少なくて済みます。老後働くということは、社会に貢献するといった精神的な意味もありますが、資産に対しても、これだけ違いが出るのです。

もう一つ。先ほど、平均的に 68%と計算した生活レベル、これを 60%まで下げたらどうなるでしょう。1 割ぐらい生活水準を下げるわけです。受け取る年金は変わりませんので、自助努力の分が大体 5600 万円だったのが、4000 万円くらいに減ります。4000 万の引き出し総額でプランを作ってみますと、75 歳以降の年金以外の引き出し額は 10 万に減ります。75 歳まで 3%で運用、4%ずつ引き出し、という条件は同じ。すると 60 歳で 2800 万円あればいいということになる。

これは意外と大きなインパクトですよ。ただ、単に節約しましょう、と言っても無理。「生活費水準」を下げるのですが、「生活水準」を下げないで済む方法として、地方都市移住というのも選択肢です。個人的には、四国松山などがお勧めですね。

一番初めの数字から、2800 万まで下がってきました。こうなると、退職金だけでカバーできる人も出てきます。そういう人は、資金準備しなくていいということになる。「ダメだ」と思うのではなくて、「できる範囲のことがあるな」と思ってほしいのです。

講演ではこの後、退職後の資金運用のひとつとして「定率引き出し」の解説、現役時代の運用アドバイスとしてステップアップ投資、NISA や DC(確定拠出型年金)の展望などについて、その他にも各種アンケート結果などを織り交ぜながら、盛りだくさんの内容をお話いただきました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

I-OWA マンスリー・セミナー対談より 退職後に備える運用、退職後の運用

座談会:野尻 哲史氏、岡本 和久

レポーター:赤堀 薫里

岡本 | 人生を通じて、資産運用をどういう形でやっていくのかは、局面によって違っていきわけですね。今日の野尻さんのお話は 3%を切り口に、全体を上手く構成されていた大変、参考になる内容だったと思います。皆さんから何か質問があればお受けします。

参加者 | 3%というのは、全金融資産の 3%ということでしょうか？例えば 3 割は手元にキャッシュをおいておかなければならない場合、実際の運用としては 7 割を 3%で回してしまうということになる。これでは駄目だということですね。

野尻 | そうですね。持っているアセット全体を 3%で回さなければだめですね。銀行預金もいくらかあって、債券も株もあってというポートフォリオが必要になってきます。

参加者 | 全体が 3%で回らなければならなくなると、預金などが多い場合はリスク資産については、5%なり、6%なりで回らないと、全体で 3%にならない気がします。



野尻 | 国際分散投資と言えるのは、「国内株、海外株、国内債券、海外債券を 1/4 ずつ持ちましょう」というのが基本でこれがワークしなければおかしいはずですが。もちろんそこに REIT を保有するというようないろいろな考えがあると思います。でも基本的には、1/4 ずつの投資がベンチマークみたいにあって、そこから自分なりのアイデアがあるわけです。

参加者 | そうなると、相当ハードルが高いような気がします。国内外の株・債券で稼ぐとなると、本当にエンジンになって稼いでくれるのは外物ということになってかなりハードルが高い気がします。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

野尻 | もう少し詰めて言えば、どの年代の人に今の議論するのかということだと思うんですよね。「相当ハードルが高い」と言っても、30代、40代の人であれば、極論を言えば、リスクを無視してリターンを取りに行くべきなのです。リターンを取りに行った結果、リスクがついてきてしまっても、それは時間分散でちゃんとカバーできるはずですよ。その一方で、途中で何か緊急に資金が必要になることがあるかもしれないので、ちゃんと現金もある程度は用意しておかなければならない。これが、60を過ぎた人のポートフォリオとしては、話は違ってきます。やはり、株式を下げて、債券の比率を大きくするなどが必要でしょう。その人のライフステージで運用もかなり変わるということです。

岡本 | 意外に生活費として持つ部分で、キャッシュを多く持っている人がいます。でも振り返ってみて、明日までにどうしても100万円必要だったということは、ほとんどないですよ。どうしても必要だったら、投信を解約しても、株式を売ってもいいわけですから。あまり極端にキャッシュを持ちすぎてしまうと、全体のリターンの足を引っ張ってしまうことになると思います。世界全体の実質GDPの成長は、3~4%位でしょう。日本のインフレは仮に2%位だとしても名目で6%。単純に言えば、大体名目GDPというのは長期金利と同じ水準に収れんすると言われています。株式のリターンは更にその上にリスクプレミアムが乗ってきます。そうすると、野尻さんの4資産均等分散は、仮に債券の実質リターンが0だとしても、多分3%やそこらは全体でとれるのではないかという気がします。

野尻 | そうですね。

岡本 | 早く始めることが何より大切です。高校を卒業したら、月々1万円ずつでもグローバルな株式インデックス投信を積立していけばいい。仮に3~4%位で回ったとすれば、30歳の時に200万円位になります。資金を追加せずに私のモデル・ポートフォリオに沿って運用すると、65歳になると500万円位の資産になる。これが退職時の資金に上乗せされてくると大きいですよ。そういう意味では、我々スタート時期を30歳と決めてしまっていますけど、18歳でもいいのかなと思います。

野尻 | ただ、この話をセミナーでお話すると、30歳スタートで言っても、「今更言うなよ。」と言われてしまいます。

岡本 | 高校生ぐらいの若い人にお話しなくては駄目ですよ（笑）。

野尻 | やはり「子どもに言わなければ」というのが大事ですよ。ただ、私もそう思うんですが、自分の子どもでも「さあ、今からやりなさい。」と言うのは、なかなか難しいですね。

岡本 | そういう意味では、子どもNISAというのは、一つのきっかけですよ。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

野尻 | いいきっかけになると思いますが、まだ残念ながら制度的には不十分ですね。

岡本 | 私はよく「65歳でいくら必要？」というよりは、「30歳の時に貯めたお金は、66歳の資金だ」という言い方をします。「31歳のお金は67歳のお金だよ」と。30歳から66歳までは36年間ありますから、もし仮に2%で運用したとしても、倍になっています。3%で運用したとしたら1.4倍になっている。そういう風に考えていくと、例えば30歳の時に収入が100あって、そのうち70を生活費で使い、残り30を将来の66歳の時の為の資金として使うと、仮に2%で運用すれば、それが60になっているわけです。就業時の生活費、70と比べて60が十分かどうか分からないけど、まあそこそこ増えているわけです。65歳の時に貯めたお金は、101歳の時のお金になります。それでいくと65歳で退職するとして、その時点の累計額が実質2800万円以上になりますからね。名目資産額はこの金額に物価上昇分を加えたものになります。そういう言い方をしないと、「30歳の人に65歳までにいくら貯めましょう」と言っても、実感がわかないのです。逆にいえば、40歳で貯めた人は65歳までだと25年間しかない。投資期間36年ではなく26年しかないので、ピーク時の資産額も小さくなってしまう。山に例えれば高さが低いうえ、裾野も短いのです。50歳開始になるともっと山は低く、裾野も短くなってしまう。早く始めることの大切さを教えるのにはこの話し方は有効だと思います。

野尻 | なかなかそこを伝えることは難しいですね。私がこの業界に入って32年ですが、後半半分は個人投資家向けにこういうことをやっています。最初の頃と比べるとここ数年は、セミナーにご夫婦でいらっしゃる方が本当に増えてきました。この後、5年、10年頑張ったら、親子で来てもらえるようになるかもしれない。今後、親子で考える投資の話のテーマができ上がったら面白いと思います。

岡本 | 野尻さんのお話を今日、伺ったのですが、私も全く同じような考えを持っています。つまり、人生を通じての資産運用をどのようにしていくのかというのがテーマになっています。資産形成を始める前の子どもからそれは教えていく必要がある。5歳児位からのお金とのつき合い方、その中に例えば「勉強という投資」の要素も入れることもできる。就職して資産形成をはじめ、退職して資産活用をする。それが最後、死ぬ時まで続いていく。そんな全体の構図が出来てきたら面白いと思います。

野尻 | 本当にそういう人生全体を俯瞰する視野が必要ですね。

岡本 | 資金の引出についてですが、野尻さんがおっしゃっていた、定率か、定額か、という問題では、私も基本的には定率ではないとおかしいと思います。定額で引き出しをしていた場合、リターンがどういう順番で発生するかによって、結果が変わってしまうリスクがある。でも定率にしておけば同じ結果が得られるということがあります。野尻さんのお話だと定率から定額に切り替えるのが、75歳からですよ。70歳を過ぎてくると残高が減ってくる中で、使えるお金が減ってきます。当



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

然、株価変動があるので、リーマンショックのようにドカーンと下がった翌年は、定率だと生活費が少なくなってしまう。そこで定率引き出しの場合にはフロアをつけたらどうなのかなと思います。

野尻 | 本来であれば、多少荒っぽい言い方をすれば保険がカバーすべきなんですよ。75 歳以降は、保険でキャッシュフローを一定額出せる。もしくはインフレにリンクする形で、実質ベースで一定額出せるというような保険があればいいなと思います。保険業界は、東西問わずハイコストのものが多く業界なので、世界中で保険に対するバッシングが強いんですからね。もっと極論を言えば、公的年金の 65 歳支給は止めて、80 歳支給に切り替え、その代りそこから先は全額生活費を国が持つ。そうすれば、そこまでの資金を用意すればいいということになりますから、長生きリスクが吹っ飛びますよね。これも保険と同じ考え方です。最後の定額引き出しがなくなります。最後まで運用して、残ったら国に全額召し上げられてもいいわけですよ。その代りに自分の生活は全部保険にお願いできる。

岡本 | いろいろと考えさせられることが満載でした。今日はどうもありがとうございました。



中国がわかるシリーズ 25 長春の春

ライフネット生命株式会社

代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

713 年、唐では玄宗の開元の治(～741 年)が始まりました。太宗の時代を初唐、玄宗の時代を盛唐と呼びますが、長安は極盛期を迎えようとしていました。世界中から人、物、金、情報が長安に集まってきたのです。太宗の時代から唐は積極的に留学生を受け入れてきましたが(現在のアメリカとよく似ています)、玄宗も、民族や宗教を超えて優秀な人材を登用しました。日本人でも、遣唐使とともに唐に渡った阿倍仲麻呂が重用されました(留学生、井真成の死去にも玄宗は弔意を表しています。また、9 世紀には、最澄や空海とともに唐に渡った靈仙が重用されています)。今日で言えば、アメリカへの留学生がオバマ政権の高官に任命されるようなものでしょう。

唐の解放性、当時の日本人の優秀性、どちらも刮目すべきだと思います(戦国時代や三国志の時代でも、お雇い外国人は、大いに優遇されました。これも、中国の一つの伝統だと考えられます)。盛唐の時代には人口も回復し、隋の盛時に並ぶようになりました。地方では、揚州や益州(成都)が商工業の中心となりました。また、季節の年中行事(元旦＝立春、春分、上巳節＝3 月 3 日、端午節、七夕、盂蘭盆会、秋分、重陽節＝9 月 9 日、冬至など)も、この頃にはほぼ出揃いました。そのほとんどが、現在のわが国に残されているのは、興味深いものです(青森のねぶたや、秋田の竿灯も、唐代の「元宵観燈」に遡ると言われています)。

しかし、長安の春と呼ばれた繁栄の陰で、国家の屋台骨とも言うべき均田制や府兵制は崩れつつありました。もっとも、[北]魏以来の均田制や府兵制がどの程度、全国に浸透していたかについては詳らかではありません。玄宗は宇文融を抜擢して括戸(逃亡農民すなわち逃戸と豪族・地主による均田地の不法占拠を元に戻す政策)を行わせ、一時的な成果を挙げましたが、大勢を覆すには至りませんでした。そこで、玄宗は、現実を直視して、平たく言えば徴兵制から傭兵制(募兵制)に切り替え、辺境防衛のために 10 人の節度使(軍の司令官が民政官を兼務する制度。ローマ帝国のテマに似ています)を置きました。節度使は、使職と呼ばれる(律令に定めのない)令外の官でした。節度使の下、辺境に張り付くことになった兵員は、(長征)健児と呼ばれました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

I-OWA マンスリー・セミナー講演より 「存在力」と Pro-Aging な生き方

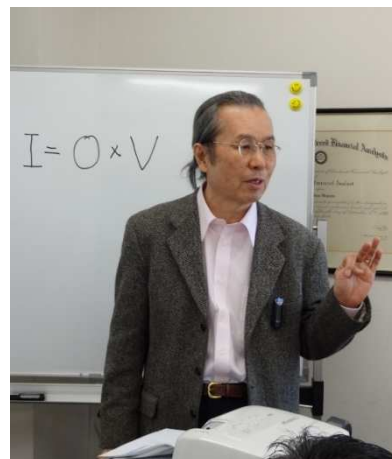
講演: 岡本 和久、レポーター: 川元 由喜子

「アンチ・エイジング」といいますが、年をとるということは「進化する」ということです。「アンチ」というよりむしろ「プロ・エイジング」、老化に親しんでいく、という考え方がもっとあって良いのではないのでしょうか。老後には若い時には無かった力が出て来ます。それを、存在そのものが持っている力を「存在力」と名付けてみました。

正月は 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし

これは一休さんの有名な句です。生まれたときから加齢という「進化」が始まっているんですね。そしてそれぞれの年代に、最適な力を持つことが出来るように人間は作られている、それが、人類という種の持続にとって有益なことだからそうになっている、そう思うのです。

定年を迎えると、組織から解放されます。これは働くことをやめる退職とは違います。退職はある程度、経済的基盤が出来て、これ以上、収入を得る必要がなくなったときに働くのを止めることです。退職により金銭的束縛から解放されます。組織や金銭的な外的束縛が減少するほどに、いままで抑えつけられていた人間が本源的に持っている力が現れて来ます。それは赤ちゃんが持つ力とも似ています。赤ちゃんは金銭の心配もしないし、組織の束縛もない、融通無碍の世界に居て、その存在だけで可愛いし、周りが幸せになれます。また、瞑想で五感の刺激から離れれば離れるほど、心に静寂な気持ちが現れて来るのとも似ています。加齢により自然に回りをしあわせにする力がでてくるのだと思います。



老後で重要なのは、「失うことに投資」することです。林望氏は貯蓄に対し「減蓄」と表現しています。失うごとにさらに品格が高まっていくような人生が良いですね。そして、未来を担う若者をどうやって育成していくか、そうしたことを考えるのが、高齢世代の責任だと思います。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

高齢化に特有の現象は色々あります。昔話をする、何度も同じ話をする。これらは若者が昔を知らないから、そして何度も話すことで若者の記憶に浸透させるためにそうしているのです。物忘れが多くなりますが、覚えていることのできる範囲で、少ないことに大きな気持ちを込めてやっていくのです。出かけると疲れるならば、隠居として相談にのる機会が増えるでしょう。耳が聞こえにくければ、ネガティブな話は聞こえません。小さい字が読みにくければ、細かいことは読まずに大局的な世の中の流れがわかります。そして若い人に負ける。それは人類が進化しているということだからとても良いことなのです。

講演では初めに、柔道の三船久蔵や太極拳の鄭曼青(チェン・マンチン)、ボサノバのジョアン・ジルベルトなど老大家の技や存在感について、ビデオを交えてお話いただきました。終わりには老後の心得のあれこれや、辞世の句の数々を紹介していただき、前向きに老後を迎えるための、多くのヒントがありました。

その後の第二部、昨年 12 月に出張授業で訪れた岩手県大船渡市の吉浜中学校の訪問記として、震災を生き延びた「奇跡の村吉浜」の紹介、艱難辛苦を経て力強く生きる子どもたちの様子など、お話いただきました。



連載 資産運用「茶飲み話」(12)

岡本 和久

「休むも相場」は長期投資の楽しみ

「休むも相場」、これは個人投資家が持つ最大の強みのひとつです。機関投資家はそうは行きません。「環境が悪いから休んでいました」というのは運用報酬をもらっているプロには通らない話です。だから、無理をしてでも激流のなかに飛び込まざるを得ないのです。そして、短期の勝負に明け暮れて結局、パフォーマンスも上がらず、個人的にもストレスが貯まるばかりになってしまふのです。



伝説の投資家、ジョン・テンプレート卿は、1969 年、あまりに雑音の多いニューヨークを後にして、英領バハマに居を移しました。その理由を彼は「神が私に与えた投資の分野での才能を生かすことこそ自分の使命である。だから、情報と雑事を離れる必要があるのだ」と述べています。そして、晩年には投資で成功するためには、「祈ること」、「雑事を離れること」、「富を人々と分かち合うこと」が大切であるとしています。テンプレート卿が偉大なのは、プロの世界で戦いつつ、このようなことを実行できたところにあります。バフェットなども同じようなことがいえると思います。

相場が難しくなるといても立ってもいられなくなり、必要もない取引をバタバタとしてしまう人がいます。そんな時こそ、「休むも相場」という言葉を思い出して欲しいのです。個人投資家はマーケットから離れることは自由にできます。そして、「休む」ことで客観的な視野が開けます。大きな経済の潮流と自分の人生に思いをはせて自らの立ち位置を確認する。将来の夢を描いてみる。山登りの途中でちょっと休憩して遠くの景色を眺めるようなものです。ちょっと汗を拭いて水を飲んだり、おにぎりを食べたり。そんなことも長期投資という長旅のなかの「楽しみ」のひとつです。

「退職したら毎月分配」は本当か

めでたく定年退職を迎えた方が退職金を毎月分配型の投資信託にすることが非常に多いようです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

確かに就業中は毎月、銀行口座に給料が振り込まれていたのにそれがストップしてしまう。もちろん、生活費はいままで通りでいく。何となく不安になるのも無理はありません。そんなときに、毎月、分配金が振り込まれてくるというのは、気持ちが少しは楽になるものです。それは非常によくわかります。

しかし、その安心を得るために何を犠牲にしているのかということをしっかりと理解することが必要です。とても円預金などでは得られないような分配金を受け取れるのであれば、その裏で大きなリスクが存在しているはず。具体的に言えば為替リスクやカントリー・リスクです。高い金利の通貨に投資をしていれば確かにそのときは高いリターンを得られますが、金利が低下しはじめると一気に売りがでて、その通貨が暴落するということはよくあります。また、国の債務が非常に大きいと格付けが低下するなど信用リスクも存在します。投資先国の金利が低下したり、通貨が安くなったりして、分配金の支払が投資収益でまかなえなくなることがあります。それでも高い分配金を支払っているのであれば、それは結局、投資元本を分配金として受け取っているのと同じことです。

毎月分配型の投信をすべて否定するつもりはありません。しかし、高い分配金の背後にあるリスクを理解しないで、金融資産のかなりの部分を投資してしまうケースは絶対に要注意です。万一、投資商品の一部が大きくやられても、全体は致命傷を受けない範囲で投資を組み合わせることが必要です。なにしろ「虎の子」の退職後資金です。失ってしまったら取り返せません。注意深い運用が必要なのです。

投信会社はつらいよ

投信会社の収入減は運用報酬です。そして、運用報酬は純資産額に一定の比率を掛けて決まります。ですから純資産額が増えないことには経営が成り立ちません。しかも、投信会社は幅広く多くの投資家に商品を提供するわけですから、色々な規制もあり、とても経費がかかります。それを賄うためには相当の運用資産が必要です。では、どうやったら資産が増えるか。販売力のある証券会社や銀行が販売してくれるのが一番、手っ取り早い方法です。販売が投信会社の経営上重要であるということは、販売会社が投資家の払う報酬、つまり投信運用すべてに関係する収入の一部を取るということです。そうでなければ販売をしてもらえません。「嫌ならいいよ」と言われてしまうと投信会社は経営が成り立たなくなってしまうのです。

ですから投信を買った時に支払う販売手数料(申込み手数料)は販売会社(証券とか銀行など)が取ります。また、毎年、純資産から引かれる信託報酬の4割ぐらいはやはり販売会社に取ります。しかも、投信が株式や債券を売買するときにも証券会社が売買手数料を取ります。つまり、銀行とか、証券にとって投信業務はすごく「おいしい」商売なのです。現実には、銀行とか、証券がグループ内に投信会社を持っているのが普通です。まさか、最近はそんなことも少なくなったと思います



長期投資仲間通信「インベストラيف」

が、投信会社の経営陣はグループ内からの天下り、スタッフもグループの中核会社からの転籍社員が多いのです。そして、販売会社は、とにかく売れるものを売りたいがる。極端に言えば、販売会社はお客が儲かるか儲からないかは別として、とにかく売れるものを売ればしっかりと収益が上がるのです。

だから、「いま、売れそうなもの」、「みんなが買いそうなもの」を出したがる。そして、グループ内の投信会社に「こんな投信を作ってくれ」と依頼する。投信会社は売ってもらえなければ経営が成り立たないから、販売サイドの要望にそった商品を作る。そして、それが幅広く販売される。普通は「みんなが買っていて、値上りし始めている」商品は価格もピークに近いのです。だから、投信は「儲からない」というイメージが定着してしまうのです。

このような投信ビジネスの構造で抜け落ちているのが、投資家が本当に必要とする商品の提供です。そこで、これを改善しようということで「直販」型の投信がでてきたのです。つまり、販売会社を通さずに自分で投信を売ることによって運用と投資家の距離を縮めようというのです。これはとても素晴らしいことです。しかし、多くの直販投信は残高が集まらないので苦労しています。でも、何とかこの努力が報われていくことを願っています。各社の「悪戦苦闘」がいつか、大きな成功に結び付き、日本の投信業界の質的な向上に結び付くことを祈ってやみません。

機関投資家はつらいよ

アクティブ運用に精をだす機関投資家と言えば沢山のアナリストやエコノミスト、チャーティストなどを抱え、膨大な資料を購読し、企業を訪問し、最先端の計量モデルを用いて運用をしています。特に、年金運用の分野では、それは、それは激烈です。個人投資家がどんなにがんばっても同じ土俵で戦っていたら、偶然にうまくいくことはあっても、まず、機関投資家に勝てることはありません。しかし、同時に機関投資家もつらいのです。どこがつらいのかを知ることは個人投資家が機関投資家に勝つヒントにもなります。

まず、ほとんどの機関投資家は四半期ごとに運用の委託先にパフォーマンスをチェックされています。四半期と言えば三カ月。どんなに長期投資目的で良い銘柄を選んでも成績は三カ月ごとに評価されます。どうしても、すぐに結果のでる投資に惹かれやすくなってしまいます。つまり、「時間といつも競争している」のです。

しかも、自社と同じように重装備をした競争相手と戦っています。年金の運用報告会では基金のトップが並ぶなかで自社の投資成果の説明が求められます。いくら、長期的視点から良い運用をしても、競争相手に何期も続けて負ければ解約されてしまうかも知れません。そのため、いつも、0.01%でも良いから高いリターンを狙います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

そして、評価されるとき基準は多くの場合、市場全体を表す指数との比較です。つまり、10%リターンがあっても、マーケットが12%上がっていたら負けとされてしまうのです。そうすると、何よりもマーケットに負けない運用が中心になってしまい、アクティブ運用の市場に勝つという運用がしにくくなってしまいます。少しでも他社よりも高いリターンが欲しい、でも、マーケットに負けるのは怖いという、まさに綱渡りを続けているのです。

さらに、ファンドマネジャーたちはいつも社内のプレッシャーのもとに仕事をしなければなりません。トップから実務者まで、関係者全員が集まる社内の投資政策委員会で「なるほど、それは良い」と全員を納得できる運用をしなければなりません。しかし、だいたい、みんなが納得できるような運用はすでに株価に織り込まれているのでまず、うまくいかないのです。と言って、「わが道を行く」というのはサラリーマン・ファンドマネジャーでは極めて難しいのはいうまでもありません。

機関投資家は重装備していますが、決して楽ではないのです。とても、つらいのです。個人投資家は完全に自由です。自分の納得できる運用をできるのです。「時間と争わない」、「マーケットと闘わない」、「欲張らない」、「考えすぎない」というリラックス投資をすることが一番、機関投資家に負けない投資法だと思います。

短期投資で大切なふたつのこと

人生を通じての資産運用を考える場合、基本は長期投資です。しかし、短期投資は株式市場に流動性を与え、適正な価格形成が維持されていくために重要です。むろん、楽しみとして短期投資を余資で行うことは決して悪いことではありません。

短期投資は基本的に投資対象が株価です。そして、売買をすることによってリターンを得ようとします。一方、長期投資はあくまで投資対象が企業そのものであり、企業を保有することでリターンを得ます。つまり、企業が成長するとともに資産を増殖していくことを目的とします。

短期投資は普通、以下のようなプロセスで行われます。まず、人の知らない情報を得ることである証券の割安性を発見する、そして、それを他の投資家が気付く前に買い、みんなが割安性に注目しだし、株価にそれが反映されだしたら売却する。ざっとこんな感じです。この過程で証券は常に新しい情報を反映することとなります。短期投資家は市場に効率性を与えています。これがアクティブ運用の役割です。

しかし、アクティブ運用全体を考えてみると市場が与えてくれるリターンは「市場リターン・マイナス・投資に伴うコスト」です。短期投資家は基本的にアクティブ運用者ですから、彼らもマイナス・サ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ムの世界にいることは間違いありません。

そのなかでプロほど情報を持たない個人投資家が短期投資でうまくいったとしても、それはほとんど「運」が良かったということです。ですから、短期投資でもっとも大切なことは、うまくいってもそれは「自分の運が良かった」と割り切ることです。決して、「俺は天才かも知れない」とか、「俺は遂に常に儲かる方法を発見した」などと思わないこと。「運が良かった」と、過去形であることにも注意してください。つまり、これまでは幸運にもうまくいったが、これからはわからないということを忘れないことです。

そして、次に大切なことは、短期の見通しが外れ株価が下がってしまったとしても、長期で保有しても安心な銘柄を選ぶということです。自分で保有していることが誇れるような企業の株式を買う。本当に良い世の中を創るために仕事をしてくれている企業を持つ。そのような企業こそ長期にわたって成長が可能なのです。そして、このような銘柄であれば短期の見通しが外れても、長期で持つことができます。

個別銘柄の選択で大切なことは企業の株主価値が長期的に右肩上がりであることです。株価はその右肩上がりのトレンドに沿って、上に下に乱高下します。しかし、トレンドが右肩上がりであれば、仮に高値つかみをして、次の高値は前回の高値よりも高い可能性が高いのです。逆に右肩下がりの銘柄だと失敗するとひどい目にあうことになります。

短期投資で大切なことは、まず、うまく行ってもそれは「幸運」であることを忘れない、マーケットはそんな甘いものではないということを忘れないことです。思い上がりは禁物。謙虚な姿勢が大切です。そして、短期投資であっても、長期投資同様にその企業の価値をしっかりと見極めるということが大切です。「どうせ短期だから企業価値など関係ない」と思うのは大きな落とし穴です。短期投資をするのであれば、これらふたつを頭の片隅に置いておくのは大切だと思います。

<モデルポートフォリオ:2015年2月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月~ 182万円
4資産型	積極型	6.24	23.79	14.82	6.43	16.85	15.36	68.55	67.36	81.07
	成長型	3.98	17.96	11.58	5.64	11.91	11.35	49.92	52.37	66.94
	安定型	1.73	12.32	8.24	4.62	7.47	7.43	33.14	37.84	52.01
2資産型	積極型	6.11	23.58	16.07	7.84	19.11	14.26	71.88	77.71	99.15
	成長型	4.05	19.09	12.94	6.78	14.03	11.36	55.50	61.65	82.71
	安定型	1.99	14.70	9.70	5.48	9.58	8.50	40.44	45.87	65.12

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。

積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2014年2月末に1万円投資資金を積み立て始め、

2015年1月末の投資資金までとする(2015年2月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: Citi WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: Citi WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

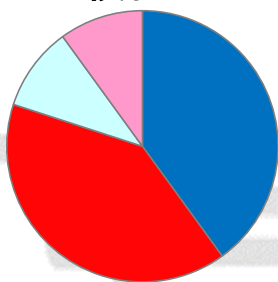
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

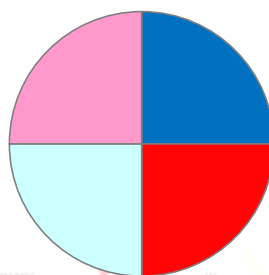
4資産

- 国内株式:
TOPIX
- 外国株式:
MSCI KOKUSAI
- 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)
- 外国債券:
Citi WGBI
(除く日本)

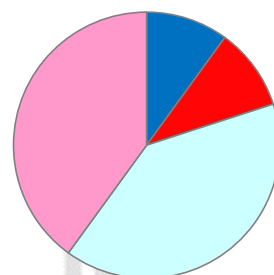
積極型



成長型



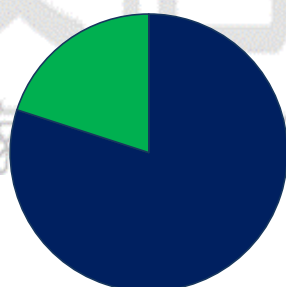
安定型



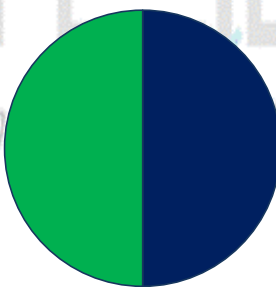
2資産型

- 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)
- 世界債券:
Citi WGBI
(含む日本)

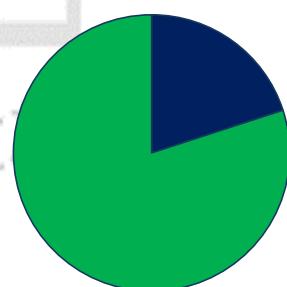
積極型



成長型



安定型



当資料は「インベストラ이프」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』の
その他の記事はこちらをご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

<直販ファンド:2015年2月末の運用状況>

運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2015年2月末		2014年 11月末	2015年 2月中
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~182万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~182万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)	(前回掲載時) 基準価額 (円)	推計資金 純流入額 (億円)
さわかみ投信	さわかみファンド	5.38	26.16	12.10	4.86	20.18	18.12	65.58	57.43	75.03	14.17	99.35	188.92	318.55	3,194.2	21,698	20,147	-59.63
セゾン投信	セゾン・バンガード・ グローバルバランスファンド	2.66	18.86	11.95	-	-	11.13	53.16	-	-	13.34	91.90	-	-	950.5	13,574	13,487	11.48
セゾン投信	セゾン 資産形成の達人ファンド	6.00	26.45	19.70	-	-	18.50	93.93	-	-	14.22	116.36	-	-	220.4	16,619	15,801	4.38
レオス・ キャピタルワークス	ひふみ投信	4.83	21.75	20.95	-	-	16.44	94.79	-	-	13.97	116.87	-	-	188.6	29,837	27,653	4.70
鎌倉投信	結い 2101	2.36	14.80	-	-	-	8.82	-	-	-	13.06	-	-	-	136.6	15,980	15,267	3.17
ありがとう投信	ありがとうファンド	4.94	22.61	13.68	4.67	17.39	14.81	63.22	58.82	-	13.78	97.93	190.58	-	120.4	15,968	15,260	-0.77
コモンズ投信	コモンズ30ファンド	6.51	30.23	12.63	-	-	20.38	67.22	-	-	14.45	100.33	-	-	61.7	23,247	21,704	0.66
クローバー・アセット	コドモ ファンド	4.63	22.94	-	-	-	15.27	-	-	-	13.83	-	-	-	37.9	13,120	12,339	0.12
ユニオン投信	ユニオンファンド	2.96	18.21	11.70	-	-	10.39	50.23	-	-	13.25	90.14	-	-	34.9	21,933	21,729	0.50
コモンズ投信	ザ・2020ビジョン	6.82	28.15	-	-	-	15.72	-	-	-	13.89	-	-	-	27.4	12,602	12,002	0.76
クローバー・アセット	浪花おふくろファンド	5.77	21.65	13.34	-	-	15.63	62.12	-	-	13.88	97.27	-	-	9.4	16,202	15,175	0.05
クローバー・アセット	らくちんファンド	5.49	23.13	11.83	-	-	16.01	56.66	-	-	13.92	93.99	-	-	7.6	14,366	13,455	-0.04
クローバー・アセット	かいたくファンド	6.28	27.50	14.12	-	-	18.19	66.33	-	-	14.18	99.80	-	-	6.2	16,879	16,014	-0.08

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合には2014年2月末に1万円で積み立てを開始し、2015年1月末投資分までの2月末における運用成果とする(2月の積み立て額は入れない)。
出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。